

お元気ですか



北海道議会議員 笠木かおる通信

道政事務所

旭川市5条通13丁目右2号
TEL.27-0300 FAX.27-0302

春。愛す。

今年は雪が浅く、春の訪れも早いです。季節とともに、前を向いて動きだしたいものです。かおる通信89号をお届けします。ご一読賜れば幸いです。

北海道議会議員

笠木かおる



か
さ
ぎ

新型コロナウイルス 笠木かおる相談窓口を開設

お電話 27-0300 FAX27-0302 お気軽にご相談ください

猛威を振るう新型コロナウイルス。その影響は全業種に及び売上高は軒並みダウン、危機的な状況となっています。また人々の日常生活にも及び、特に雇用が不安定な非正規、フリーランス、パートの方々など、収入が途絶える方もでています。

笠木かおる道政事務所では、「新型コロナウイルス相談窓口」を設置しています。困ったこと、わからないことなど、お気軽にご相談ください。しっかりと政治や行政につなげ、安定した生活を取り戻してまいります。

北海道の一般会計は2兆8千億円。



道議会・第1回定例会は、2月27日に開会し3月25日までの28日間の会期で開かれました。鈴木直道知事にとって初なる道の一般会計予算の総額は約2兆8千億円。一般財源に占める借金の割合

は、20.8%で、47都道府県で最も高くなっています。

限られた財源の中で、「鈴木カラー」をどれだけ打ち出せるかが焦点でしたが、残念ながら新鮮さに欠ける内容となりました。知事公約の「ほっかいどう応援団会議」の活性化などが強く求められます。

キタデミー賞金銭問題の究明に動く



一昨年、北海道命名150年記念で開かれた祭典、「キタデミー賞」。制作会社と業務委託契約を結ばず行い、当初予算900万円の委託料なのに6502万円を請求された問題。道は札幌商裁の2805万円を支払う調停案を受け入れました。道民の税金が使われる以上、事業の透明性が求められるとの思いから、自分も徹底調査。当時の高橋はるみ知事のトップダウンで事業がすすみ、行政事務に求められる起案・決裁も行われておらず、いくつかの虚偽文書も明らかとなりました。知事案件での重圧が根本にあり、担当者だけに責任をとらすことにも問題があります。組織的な隠ぺい体質を改善し、公金取扱の厳格さを求めてまいります。

満員御礼。地区新春の集い



2月1日から6日までの間で、東旭川地区後援会(横尾政博会長)、豊岡地区後援会(長瀬信秀会長)、愛宕地区後援会(畠山勝美会長)、旭正地区後援会(矢部茂弘会長)、千代田地区後援会(島田昭雄会長)の、5つの地区後援会で新春のつどいを開いていただきました。どの会場も、ご無理くださった皆さんであふれました。心から感謝申し上げます。今後、全市的に地区後援会を作っていく計画です。ご協力を心からお願い申し上げます。(写真は豊岡地区後援会)

未来社会を探る 総合政策委員会

1月28日から4日間、総合政策委員会の道外調査が行われました。テーマは、日本が提唱する未来社会のコンセプト「ソサイティー5.0」や本格導入される移動通信「5G」について。総務省や内閣府の聞き取り、トヨタやソフトバンク、NTTドコモがすすめる技術開発、千葉や福島でのスマートシティ構想を視察しました。10年後の社会は、想像以上に人工知能や情報通信技術が進歩します。自動運転やロボットの実用化が少子高齢、人口減少や過疎化という社会現象にどう生かせるのか、未来の社会をさぐる調査でした。



地方創生を見る 人口減少・地方分権特別委員会



2月13日、14日の両日、人口減少問題・地方分権改革等調査特別委員会で、道南の七飯町、福島町、知内町、木古内町を調査しました。どこも人口4000人台の自治体。国の地方創生交付金を有効活用するなどして、特色ある独特の取り組みがなされていました。地方の支援こそが、北海道の一番の役割です。

新時代の飛躍を誓う

1月6日、旭川市と旭川商工会議所主催の「新年交礼会」が開かれました。行政や経済関係者など約千人が参加し、新しい時代の飛躍を誓いました。明治23年に開村した旭川は、今年で130年。時代の流れを的確にとらえ、未来を切り開く「令和」の始まりです。



北海道・東北六県議会議員研究大会が1月25日、福島市で開かれました。テーマは「地域資源を活かした地方創生」。個性、ならでは、といった言葉が飛び交う会場。豊かな自然と明瞭な四季、美味しい食べ物と「人」。北海道の資源は豊富です。

【近況】孫の長男・太志くんは実業校へ。勉学よりサッカー優先? 匡志くん、ひなたちゃんも無事、進級。コロナ自宅待機で身体を持て余し気味。レオン君は元気に保育園に通い、日本語が得意となってきました。



何としても残したい。石北・宗谷・富良野線。



2月5日、北海道地方路線問題調査特別委員会が開かれました。この日も「JR単独では維持困難線区」の存続について質問に立ちました。JR路線網の確立は、今年の最大の政治課題の一つ。北海道のリーダーシップが、いよいよ求められています。

北の森づくり専門学院が開校しました。



道立林産試験場（西神楽）を仮校舎に、道立北の森づくり専門学院が開校しました。2年制、学年定員40名。百年先を見据えた森林づくりを理念に、山のスペシャリストと木材産業の中核を担う人材を育成する学校です。オール旭川で支える学校を目指しています。



ウポポイ オープン

先住民族のアイヌを主題とした日本初の国立博物館「ウポポイ」が、4月24日、白老町ポロト湖畔に誕生します。「ウポポイ」は、アイヌ語で「おおぜいで歌うこと」。是非、お出かけください。

元旦から始動

令和最初の元旦は穏やかな1日。町内会等の新年会に顔をだしながら、恒例の「元旦街宣」を行いました。「のどのピリピリ」は、毎年の自分の「元旦症状」。今年で21回目となります。(写真/生まれ育ちの「大通り5町内会」新年会)



初競り

1月5日、旭川御売市場の初競りにはじめて顔をだしました。自慢の、美味しい「食」の関係者は、威勢がよく、競り場は凛とした空気。身も心も引き締まりました。



走り抜けた1月

1月26日は、14か所の新年会にご案内をいただきました。1年で一番時間に追われた日かもしれませんが。記録をみると75か所の新年会に顔をだしました。雪が少なく、除雪の苦情もなし。「笑う門には福来る」です。(写真/リバーサンビレッジ町内会)



旭川共生会理事会



3月30日、(福)旭川共生会の理事会を開催しました。法人設立に向け、準備委員会を設立して20年になります。優秀なスタッフにより、共生園も「成人」を迎えた感じがします。この日は、令和2年度の事業計画や予算を決定。新型コロナウイルスに万全の対策を講ずることも確認しました。

毎年6月に、バス3台を連ねての1泊旅行。笠木かおる旅行会は、新型コロナウイルスのため、今年は見合わせることにいたしました。残念です。



旗びらき



1月は推薦いただいている労働組合の新年会（旗びらき）にご案内をいただき、働く人々と懇親を深めることができました。



1月9日は、連合上川地協の新年交礼会。富める者が富めば、貧しい人にも自然に富が滴り落ちる（トリクルダウン）という経済政策の破綻。貧富や、都市と地方の格差解消は、政治の一番の役割です。

街頭から訴え



毎週土曜日、午後2時から1条買物公園での街頭宣伝活動。自分の思いをわかりやすく表現するのは、難しいものです。「土曜街宣」以外にも、時間を見つけ、街頭に立とうと思う最近です。

パークゴルフ場使用料値上げの見直しを

旭川市パークゴルフ協会の総会が1月19日に開かれました。今シーズンから嵐山PG場が600円から900円に、大幅に値上がるのをはじめ、全市営PG場の使用料が値上がりします。引き続き、値上げの見直しを求めています。



第2小学校・第2中学校の廃校に想う



3月31日をもって、東旭川町旭正の市立第2小学校と第2中学校が廃校となりました。2020年(令和2年)2月22日、午後2時22分。第2小学校の閉校式典が行われていました。

実る田の面から学校がなくなることにつらい思いがします。毎年の「2のぞろ目」は、2小と2中の記念の時間です。



びあふる岩山・餅つき大会 1/11



旭川手をつなぐ育成会新年会 1/18



東旭川ふゆまつり 2/16



居酒屋・なり多さん閉店 3/6

青木延男さん逝く

1月6日、元道議会副議長・青木延男先生がお亡くなりになりました。豪快で、がらっぱち、硬派のイメージですが、私の知る青木先生は、本能的に人の心をつかみ、繊細で、人一倍やさしく、面倒見のいいかたでした。様々お世話になったことを想い、心静かに手を合わせました。(お元氣だった青木先生とともに)



大きなご支援に心から感謝します。たゆまぬ努力、全力で働きます。